平成28年度 介護保険特別会計の決算の状況

介護保険特別会計の決算の状況は、図4のとおりです。

歳入は、80億8028万円、歳出は78億6504万円で、2億1524万円が平成29年度への繰越金となります。この繰越金から、28年度分の負担金などの清算として、国や都などに7337万円を返還します。

◎歳入

歳入の主なものは、支払基金交付金(40～64歳の医療保険加入者が納めた保険料)、65歳以上の加入者が納めた保険料、国・都からの負担金・補助金で、歳入の82・0%を占めています。

また、保険給付費(市が介護サービス事業者に支払う費用)などの市負担分として、一般会計から11億9034万円、市の介護保険のための基金から1700万円を繰り入れました。

◎歳出

歳出の主なものは、保険給付費で、全体の91・9%を占めています。残りの8.1%は、基金積立金、総務費(人件費や事務費など)、地域支援事業費(介護予防や地域包括支援センターなどの費用)、国・都などへの負担金返還額を含めた諸支出金です。

なお、保険給付費は、50%を加入者が収めた保険料で負担し、残りを公費(国25%、都12・5%、市12・5%)で負担しています。

◎一般会計からの繰入金が増加

27年度と比較すると、歳出の保険給付費が2億5562万円増加しました。そのため、国・都の公費負担分も負担割合に応じて増加し、市の一般会計からの繰入金も783万円増加しました。

◎65歳以上の加入者1人当たりの保険料と保険給付費

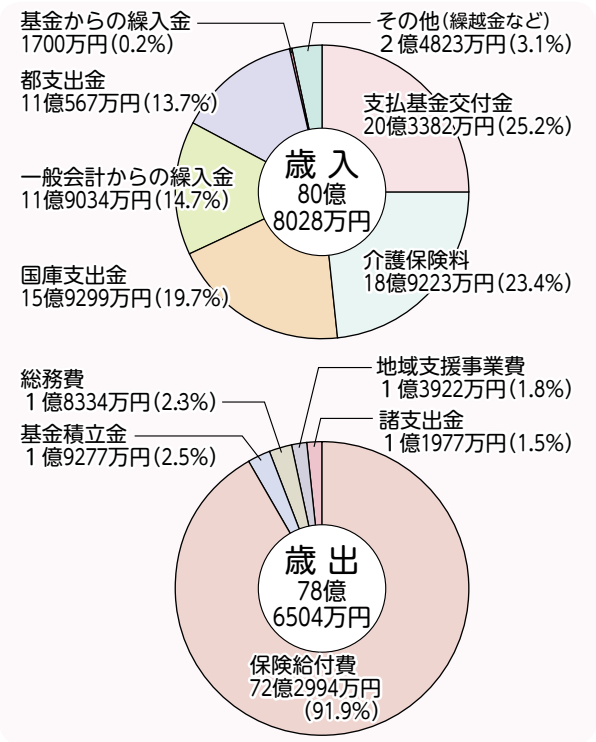
65歳以上の加入者1人当たりの保険料は、平均年額6万7024円でした。

サービス利用者1人当たりの保険給付費は、施設サービス給付費が平均月額25万2460円、居宅介護サービス給付費が平均月額11万8759円でした。

27年度と比較すると、保険料は443円、居宅介護サービス給付費は4378円増加し、施設サービス給付費は9009円減少しました。

☆詳しくは、介護保険係へ。

▼図4　平成28年度介護保険特別会計決算



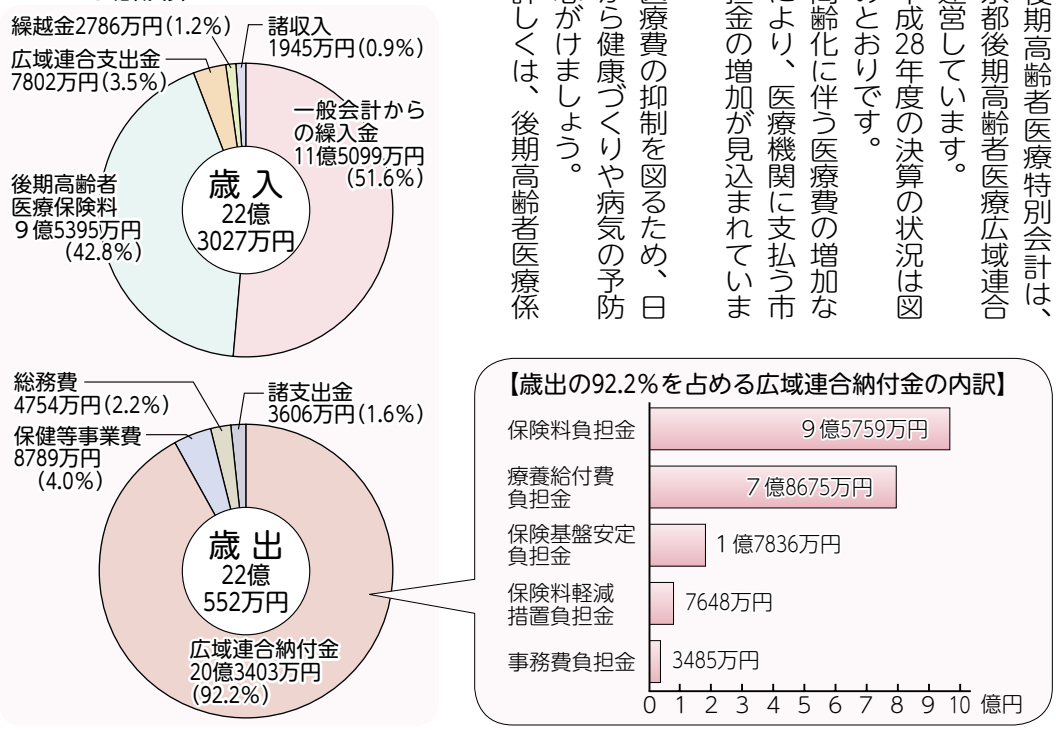
平成28年度 後期高齢者医療特別会計の決算の状況

後期高齢者医療特別会計は、東京都後期高齢者医療広域連合が運営しています。

平成28年度の決算の状況は図5のとおりです。

高齢化に伴う医療費の増加などにより、医療機関に支払う市負担金の増加が見込まれています。

医療費の抑制を図るため、日頃から健康づくりや病気の予防を心がけましょう。

☆詳しくは、後期高齢者医療係へ。

▼図5　平成28年度後期高齢者医療特別会計決算